

受験番号

氏名

国
語

2023 年度

中学入試体験会

国 語

(45 分)

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 問題用紙・解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
3. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
記入の方法を誤ると得点になりません。
4. 終わりの合図とともに、問題用紙・解答用紙を提出してください。

芝国際中学校

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数指定のある場合は、句読点や符号も一字と数えます)

いま私たちはこのままでは社会がもたない、いや、地球がもたないという大きな曲がり角に立たされています。Sustainable Development Goals (SDGs、持続可能な開発目標)とは、持続可能な世界を実現するための二〇三〇年までに達成すべき十七の国際目標です。政府にだけ関係があるわけではありません。民間企業も地方自治体も一緒にやろう、そんな国際的な潮流です。

私たちは石油を中心としたさまざまな資源に依存①しています。生活のあらゆる面でプラスチックを使っている。資源の再生産可能なペースの一・七倍という試算もある。このままのライフスタイルをいつまでも維持②できないのは明らかです。そのアンバランスさは気候変動に現れています。二十年ほど前から、アフリカでは大規模な干ばつが起き、太平洋には海面の上昇③のせいで水没④しつつある島国がある。先進国でも毎年のように起きる大規模な山火事や集中豪雨⑤をはじめ、年々身近な問題になりつつあります。

「社会と経済の問題でもある」

SDGsは地球環境⑥だけの問題ではありません。貧困と格差という社会や経済の問題でもあります。いま世界全体で⑦中間層が薄くなり、貧困層が拡大する傾向が見られます。歴史を見ても、貧富の格差が広がると紛争⑧やテロ、排外主義⑨が台頭し、極端なナ

シヨナリズムが幅⑩を⑪かせるようになる。こうした傾向に歯止めをかけ、私たちの未来を良いものとして迎⑫えるにはどうすればいいのか。SDGsのキーワードは、「サステナビリティ」と「誰一人取り残さない」、つまり持続可能性と格差・不平等の解消です。持続可能な社会とは仕事があり、人間らしく働く環境⑬が整っていること。安全な家に住めて、食料があること。そして子どもを育て、教育を与えることができること。

日本だってこのままで大丈夫ではありません。地方自治体は人口が減少し続け、消滅⑭するところも出てくるという予測もありました。子どもの貧困など、格差や不平等も深刻化しています。自然災害も増えています。二〇三〇年には労働人口の約半数が人工知能に取って代わられるだろうという指摘⑮もあります。一部の人が稼げる⑯仕事に就き、そのほか大勢の人は過酷⑰な労働に従事する、それがみなさんの未来だとしてもおかしくありません。

つまり、悠長⑱に考えていい問題ではない。SDGsが二〇三〇年を目標に設定しているのはその危機感があるからです。⑲社会経済をデザインし直し、この十五年間にしなければならぬことはなんなのでしょか。

主役になるべきはみなさんのような若い人たちです。いまの社会を作ってきた大人はいずれ退場してゆく。みなさんの当事者意識とロードマップづくりが大切です。国連のグテーレス事務総長は二〇一八年秋、「ユース二〇三〇」というプロジェクトを立ち上げました。これらの活動は、若い人たちをエンパワーし、若い人たちとともにしなければならぬ、と明確に打ち出しました。超少子高齢化⑳が進む日本ではあまり実感できませんが、世界では

いま若い人口はとても多い。人数が多い分、若い人が結集すると大きな力になるのです。彼・彼女らがこれからの時代を生き抜くに当たって必要な資源や教育を提供してゆくべきなのです。

今日の世界の技術革新の速さ、特にデジタルイノベーションの進展を勘案すると、**A** 大人たちの知識は役に立ちません。私たち大人の役割は、若い人たちの決断の背中を押したり、法律を整備したり、予算をつけることかもしれません。

日本の若者に身につけて欲しいと私が願っているのは、SDGsの源泉である普遍的価値観です。第二次世界大戦が終結した一九四五年に、「二度と世界大戦を起こさない」ことを目的に国連が設立されました。国連憲章に書かれていること、**B**、自由、人権、民主主義がいまの国際秩序のベースとなる普遍的な価値です。一九四八年に採択された世界人権宣言と国連憲章が国際社会で共有されている理念です。ただ、その理念と現実の間には凄まじいギャップがあります。過去七十年にわたり、国連を中心としてそのギャップを埋めるための努力をしてきたと言えるでしょう。**C**、いま、この理念はとても危うい。自国ファースト主義が横行しています。三百年後の学生は、「一九四五年からのある時期は、人権を中心とする普遍的価値をベースとした国際社会を築こうとした時代」と学ぶかもしれません。国際協調主義が過去の歴史にならないように、いまが踏ん張りどころです。

一方、SDGsの潮流に乗り、ビジネスの世界では人権が重要視されるようになってきました。企業、投資家、消費者たちが重視し始めています。九〇年代、世界的なスポーツ用品メーカーが人権の軽視を指摘されたことがありました。開発途上国に設置し

た工場で児童労働が行われていたのです。不買運動は世界的に広がりました。アパレルメーカーであれば、自社の工場はもちろん、加工前の原材料を製造する過程、サプライチェーンのあらゆる過程で環境に負荷をかけていないか、人権を軽視した労働環境でないか、そこまで投資家の目が及ぶようになりました。調達先だから知りません、とは言えません。

「少女たちへのエンパワメント」

国連憲章と世界人権宣言を実現するために国連は三つの柱を掲げて活動しています。「平和と安全保障」「人権」そして「開発」です。私が働いていた国連開発計画（UNDP）では「開発」を担っていました。「開発」とは人間を開発すること。具体的に表現するならば、一人ひとりの人間が持つて生まれた可能性を開花させ、^⑥社会の一員として尊厳ある人生を送れるために必要な環境を作ることで、それが目的です。一九九〇年にこの考え方が発表されたときには革命的な考え方でしたが、いまやかなり根付いたと考えていいでしょう。

人間開発のためには、次の四つが必要です。健康、教育、生計手段（経済力）そして社会や政治に意欲を持つて参画すること。これらを身につけて初めて、自分の可能性を開花させる土台ができたことになる。それがSDGsの理念というエンパワメントです。ここでいうパワーとは自分の人生を自己決定する力のこと。人生には、学校への進学、働くこと、結婚、子どもをいつ何人持つのか、さまざまな選択があります。なかでも**⑦**力は大切

な要素です。知識があっても⑦力がなければ自己決定できません。

私が国連開発計画で専門的に取り組んだのはジェンダーの問題でした。世界中の子供たちが学校に通えるようにしようという国際目標があり、そのために学校を建てたり、先生を養成したりしています。この目的を実現するためにジェンダーがとても大切なポイントになってきます。なぜ、開発にジェンダーの視点が大切なのでしょう。

私が出かけたプロジェクトに、グアテマラに住む少数民族マヤ族の少女たちを小学校に入れるようにしようというものやベトナムの山岳地帯の少数民族への女子教育がありました。

現地を訪れると、小学校三年生くらいまでは男女は半々です。ところが、高学年になると、二十人のクラスに三人しか女子がいなくなります。なぜでしょう。女子のやる気がないからなのか、能力が劣っているからなのか。この格差の背景を探らなければなりません。調査すると、能力ややる気の問題ではなく、女子特有の障壁がたくさんあることが見えてきます。

たとえば妊娠出産。ほぼ全てのケースで本人が望んだものではありません。本人には決定権がなかったりしていることもある。児童婚という風習では、本人の希望とは無関係に、借金の肩代わりや有力者への忠誠心を見せるという目的のために歳の離れた大人に嫁がされます。「十三歳で結婚。十四歳で出産。恋は、まだ知らない。」これは私が理事を務めるNGOが展開したキャンペーンのコピーです。早すぎる結婚で人生に対する自己決定権を奪われている少女はたくさんいます。

もう一つの大きな問題はケア労働です。ケア、つまり、人のお世話にまつわる、家事、育児、介護、看護といった労働です。

人々の生存と幸せを支える重要な労働です。私も高校生の娘のために朝ごはんとお弁当をつくりまします。朝起きて水道をひねり、ガス台で火をつけて煮炊きして、そのあいだに洗濯機を回す。三十分程度の仕事です。でも世界の大半の地域では、朝ごはんの準備はまず水汲みと薪集めから始まる重労働です。そしてそれは女性の労働とされています。娘が大きくなって体力がついてくると、お母さんは手伝いを命じる。自然と娘たちは学校を辞めて、家族の労働を手伝うようになってしまいます。このようなケア労働を止めるとはいえません。誰かがやらないと家族が死んでしまうという大切な仕事です。その責任が女性の肩にかかっている。電気や水道のようなインフラを通じてどう軽減するか、また、家庭内の男女間でちゃんとシェアをする必要があります。

また、女子の就学には、トイレの問題も大きく関わります。世界をみれば、日本の学校のようにプライバシーも保たれ、衛生的な不安もないトイレはまだ多くありません。生理が始まる年齢になると女子就学率ははつきりと下がってしまふ。学校を辞めないまでも月に一週間も登校できないと学業も遅れます。そういうインフラの問題もあります。

これらの女子特有の問題を解決しなければなりません。学校を建設したんだから、平等だろうと言っても、実はそうではない。女子特有の障壁がそのまま残っているのなら、それは女子にとって不平等な環境なので、障壁を取り除く必要があります。平等の概念を考え直すことが必要かもしれません。「スフィア基準（人

道憲章と人道対応に関する最低基準」というものがあります。これは一九九〇年代以降に各地で起きた災害や紛争時の人道支援の膨大な経験をベースに作られた人道支援のための国際基準であり、実用的なガイドラインです。生命を保護し、人間的な生活をするために不可欠な要素として給水や衛生、食糧の確保などが挙げられています。そのなかにトイレの設置基準があります。スフィア基準が定めるのは、男女別であることと、男性1に対して女性3の比率であること。用をたすための所要時間を考えるなら、それが男女平等だという基準です。ところが東日本大震災のときにつくられた避難所では、トイレは男女同数というところがありました。女性ばかりが長い列を作って順番を待っている。機会の平等は当たり前ですが、そこから結果に行き着くまでの過程にも目配りしなければならぬというのが国際潮流です。ビジネスの世界でも、管理職や幹部職など意思決定に男女が同じように参画することの必要性やメリットが認識されています。日本でも「女性活躍」ということでかなり浸透してきたと思いますが、意思決定ポジションに就く女性はまだまだ少ない。経営者や管理職の人たちのなかには、「女性に意欲がないからだ」と言う人もいます。本当でしょうか。女性のやる気を奮うような⑩はないのででしょうか。⑩を取り除き、フェアな環境をつくって。はじめて、男女ともに能力をベースに対等に働くことができる。こういう「ジェンダー平等」の視点が大切です。

「ベトナムのお母さんに教えたマッシュルーム栽培」

UNDPに勤務していた時、ベトナム政府の依頼で山岳民族の女子就学率の向上プロジェクトを実施しました。まずは、なぜ就学率が低いのか調査しました。

先ほど挙げた理由と共に、よくあるのがお父さんが就学に反対するケース。ところがこの地方ではお母さんが娘が学校に通うことに反対していました。娘は貴重な労働力だからです。水汲みは重労働ですから手伝ってくれる人が欲しい。そのうえお母さん自身学校に行ったことがなく、学校や教育の価値がわかりません。

私たちは六ヶ月間、お母さん向けの識字教室を開いた。まずお母さんたちに学校に来てもらって、文字の読み書きを学んでもらいました。読み書きだけではありません。生活にまつわる知識を学ぶ機会にもしました。トイレに行ったら手を洗う、食事の前には手を洗う、予防接種をして感染症を予防する、そんなことです。誰でも知っているあたりまえのことじゃないか、と感じるかもしれません。でもその知識を知っているのは、誰かがいつかあなたに教えてくれたから。ベトナムの山深い地域では衛生の基礎知識がないゆえに、日本だったら救われる感染症や下痢による脱水性状で、子どもたちが死んでしまうのです。

知識を得ても、実践できなければなりません。手洗いならば家で実行できますが、予防接種をするのはたいへんです。山のなかから、バスに何時間も乗って町まで行かなければならない。そのバス代をどうするか。プロジェクトでは私はお母さんたちにマッシュルームの栽培技術や縫製技術などの技能訓練を提供し、そう

やってつくった商品を市場に出してお金を稼いでもらいました。自分のお金があつて初めて、自分の意思で行動することができるようになるのです。SDGsの柱のひとつが経済力をつけてもらうことだとお話ししたのはこういうことです。

生まれて初めて自分のために時間を使った、というお母さんたちのことばを聞いてハッとしました。彼女たちは物心ついて以来、文字通り朝から晩までケア労働に明け暮れている。でも学校で過ごす時間は自分だけの時間なのです。娘たちもぜひ学校に通わせたい、そう言ってくれました。

「SDGsの理念」

国連のHPにはSDGsの十七のテーマが掲げられています。ぜひ見て欲しいのですが、この背景にある理念をしっかりと学ぶのが大切です。それは次の四つにまとめられます。

- 一、誰一人取り残さない。男性も女性も、性的マイノリティも障害を持つている人も全員が対象です。
- 二、ユニバーサリティ。舞台は開発途上国だけではなく、日本のような先進国も対象です。
- 三、社会変革である。資源の使い方も、意思決定の仕方も、あたらしいアプローチを考えなければなりません。大きな社会変革です。
- 四、マルチ・ステークホルダー。みんなでやること。取り組み

に対して政府や国際機関が大きな責任を持っていますが、そ

れだけではありません。NGOも企業も地方自治体も、労働組合のような団体も、教育機関も誰もが実行しなければなりません。

いずれの理念も重要なものですが、四つめのみんなで取り組むことについて補足します。D 防災計画を立てるとき、健康

な男性だけで決めるといふ無理が生じます。避難しなければならぬ人には、アレルギーを持った子どもがいるかもしれない、杖を手放せない人もいる。感染症への抵抗力は人によって違います。熊本の地震では揺れそのもので亡くなった方の実に四倍の方が、避難生活で命を落としました。高齢者や子供が地べたに寝かされていた東日本大震災の避難所の風景は世界を驚愕させました。呼吸疾患や感染症のリスクを高めるからです。防災計画を立てるときには、地域の多様な人たちのニーズをくみ取れるように、いろいろな知識を持った人々、さまざまな立場の人が多様に参画することが欠かせません。これも東日本大震災の教訓ですが、日本人は自己責任と考えすぎる傾向があります。日本人は我慢強い、でも我慢しすぎる。受援力と言っていますが、困ったときには周囲や専門家の助けを求めて解決することが必要です。自分で解決しなければならぬ、解決できることばかりではありません。それも私たちの大きな問題です。

『高校生と考える21世紀の論点』左右社

2019「SDGsって何だろう」大崎麻子 より抜粋

問題作成のため内容の一部を変更しています。

- ※1 ナショナリズム：一つの民族国家が統一し、発展するための思想
- ※2 サステナビリティ：持続可能性。今の世代の活動が将来の世代の活動を損なわないよう持続させること
- ※3 エンパワー：力を与えたり、自信を持たせること
- ※4 サプライチェーン：一つの商品を作るときの、材料集めから販売までの流れのこと
- ※5 国連憲章：国際連合を発足させた際の、平和と安全を守る基本原則
- ※6 世界人権宣言：国際連合の総会で決まった人権を尊重するもの
- ※7 エンパワメント：力をつけさせること
- ※8 ジェンダー：性別
- ※9 インフラ：社会生活の土台となる電気・道路・鉄道などのこと
- ※10 マイノリティ：少数派
- ※11 ユニバーサルティ：普遍性^{ふへんせい}。すべてにあてはまる可能性
- ※12 アプローチ：働きかけること
- ※13 マルチ・ステークホルダー：当事者だけでなく第三者も入れて考えること

問一 A D にあてはまる適切な語を、次の1～4からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- 1 しかし 2 もはや 3 たとえば 4 つまり

問二 — 線①「依存」、— 線④「悠長」の意味として適切なものを、次の1～4からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

①「依存」

- 1 エネルギーになるすべてのもの
 2 他のものに頼って成り立つこと
 3 すでにあるものを活かすこと
 4 自然界にあるすべてのもの

④「悠長」

- 1 恐れることなく何事も人間主体で考えること
 2 はるか遠い未来のこと
 3 落ち着いていてゆっくりとした態度を取ること
 4 尊厳を持っていろいろ調べること

問三 — 線②「中間層が薄くなり、貧困層が拡大する傾向」という箇所の、「中間層」と「貧困層」は何を指していますか。組み合わせとして適切なものを次の1〜4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 中間層…食事面で栄養のあるものを食べる層
貧困層…食事面で栄養のないものを食べる層
- 2 中間層…職業的に難しい仕事をしている層
貧困層…職業的に貧しい仕事をしている層
- 3 中間層…家屋的に中くらいの家を持っている層
貧困層…家屋的に貧しい家を持っている層
- 4 中間層…経済的に普通の生活を送ることができる層
貧困層…経済的に普通の生活が送れない層

問四 に入る漢字一字を、文意に合うように自分で考えて書きなさい。

問五 — 線⑤「社会経済をデザインし直し、この十五年間にしなければならぬことはなんなのでしようか」とありますが、本文全体を通して「しなければならぬこと」を五〇字程度でまとめなさい。

問六 — 線⑥「社会の一員として尊厳ある人生を送れるために必要な環境」とは、どのような環境を作ることですか。適切なものを次の1〜4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 衣食住や教育面、育児面で格差や不平等のない環境
- 2 自然災害のない、豊かで実りある環境
- 3 人工知能を開発し、人間が楽になる環境
- 4 身分が保証されていて、高価なものを食べられる環境

問七 とに入る漢字二字の組み合わせとして適切なものを、次の1〜6から一つ選び、番号で答えなさい。なお、もも共に二箇所ずつありますが、同じ記号の箇所には同じ漢字二字が入ります。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 ⑦健康 ⑩教育 | 2 ⑦社会 ⑩環境 |
| 3 ⑦政治 ⑩時間 | 4 ⑦環境 ⑩社会 |
| 5 ⑦経済 ⑩障壁 | 6 ⑦教育 ⑩価値 |

問八 — 線⑧「なぜ、開発にジェンダーの視点が大切なのでしょうか」の回答として正しいものを次の1〜4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 性差には向き不向きがあり、力仕事は男性、家事は女性というような考え方が必要だから
- 2 子供たちが学校に通えるようにするために、男女比率が世界的にどれくらいかきわめたいから
- 3 能力ややる気の問題で劣っている女性は、難しいことや継続したことに向いていないから
- 4 女性のやる気を奪うような環境や状況が、開発途上国に

はよくあるから

問九 — 線⑨「高学年になると、二十人のクラスに三人しか女子がいなくなりますが」とありますが、なぜですか。適切なものを次の1～6から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 能力が劣っていて、やる気もないから
- 2 妊娠や児童婚があるから
- 3 男子のほうが学習意欲があるから
- 4 ケア労働は女性の役割とされているから
- 5 自然と学校を辞める風土があるから
- 6 衛生的なトイレがないから

問十 — 線⑩「お母さん向けの識字教室を開いた」のはなぜですか。適切なものを次の1～4から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 まず娘よりも、社会的に大人の教育が大事であり、母に読み書きを学んでもらうことによって、学校に来られない娘に教えてもらおうとしたから
- 2 家族で学習することによって、自分たちがどのような状況にいるのかを認識してもらい、自発的にケア労働をこなしてもらいたいから
- 3 母に読み書きを学ばせ、お金を稼ぐ経験をしてもらうことは、自分のために時間を使うことが娘にも重要だと考える

させることができるから

- 4 お父さんが就学に反対するケースもあるので、お母さんに読み書きを学んでもらうことによって、まず家族の収入を安定させたかったから

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数指定のある場合は、句読点や符号も一字と数えます)

あらすじ 泰司は小学五年生。冬に三上君とかまくらを作る約束をしていたが、三月に引越しが決まってしまう。三上君に引越しを言えないまま二月になり、三上くんは「タイ、なんか、三学期になってからずっと機嫌悪くない？おなか痛い？」と言ってきた。泰司は他の友だちと一緒に自然にふるまっても、二人きりのときには、どうしてもいいかわからなくなってしまう。

三上くんはまだなにも知らない。転校のことは、まだクラスの誰にも打ち明けていない。お母さんに「ウチでお別れ会してもいいから、早めにみんなに教えてあげて、都合を訊かなきゃ」と言われても、どうしても切り出せずにいた。

前の学校でも、その前の学校でも、「オレ、今度転校するから」とあっさり言えたのに。仲良しの友だちの数は、もしかしたら、この学校よりも前の学校のほうが多かったかもしれないのに。でも、前の学校でも、その前の学校でも、三上くんほど気の合

うヤツはいなかった。五年生になっても、六年生になっても、中学生になっても、ずっと一緒にいれば、親友になれたかもしれない。それとも、もう親友になっているのだろうか。もしもそうだとすれば、親友と別れるのは、生まれて初めてのことだった。うつむいて歩く泰司の足元を、松ぼっくりがアと転がって追い越した。

「タイ、その電柱がゴールだから！」と三上くんが後ろから言う。

泰司は黙って、すぐ先の電柱を狙って松ぼっくりを蹴った。

ゴールが決まったら——。

今日、言おう、と決めた。

ふわっと浮いた松ぼっくりは、電柱に当たるか当たらないか、ぎりぎりのあたりに飛んでいった。風が吹く。ひととき強い北風が、電線をびゅうつと口笛のように鳴らして吹きわたる。その風が松ぼっくりの進む方向を微妙に変えた。

こつん、と電柱に当たった。

「ナイスゴールー！」と三上くんがうれしそうに言った。

泰司もジャンパーの袖に手を隠したまま、形だけ、ガッツポーズをつくって応えた。

雪が降るといいのに。どんどん降って、どんどん積もって、三上くんと一緒に「かまくら」をつくって、二人で中に入ってミカンを食べて……。

そのときなら、素直に「オレ、転校しちゃうんだ」と言えそうな気がするのに。

でもいいや、もういいや、まだ六十二日もあるんだから。

泰司は電柱の前に落ちた松ぼっくりをまた道路の真ん中に蹴り出して、「次のゴール、あそこのポスト！」と宣言した。

「うっしやーっ！」

三上くんも勢いよく駆けだして、松ぼっくりを思いきり蹴った。

泰司も蹴る。

三上くんも蹴る。

「よかったな、タイ、下痢ピー止まって」

「バーカ」

松ぼっくりを蹴るのをやめて、「ライダーキックー！とうっ！」と三上くんに跳び蹴りをした。三上くんは大げさにひるんでキックをかわし、すぐさま「イーッ、イーッ」と奇声を発しながら戦闘のポーズを取る。サッカーごっこは、いつものとおり、あっさり『仮面ライダー』ごっこに変わった。

午前中の授業を受けている間に、空はいつそう寒々しくなった。風も強くなって、建て付けの悪い窓をイと鳴らしていた。

「雪、降るよな、これ、絶対に降るよな」

給食のときに泰司が言うと、三上くんはあっさり「降っても、積もらないよ」と言った。「雪は夜中のうちに降らないと積もらないんだよなあ」

「そんなことないよ」

泰司はムツとして言い返した。「積もるよ、絶対」——そうだなきゃ困るんだ、と心の中で付け加えた。

「ちよつと降って、それでもう終わりだよ」

「積もるっ」

「積もらないっ」

「積もるったら、積もるんだよ」

「なに言ってるんだよ、積もったら困るだろ、サッカーできなくなるだろ」

「雪合戦しようよ」

「そんなのがキッぽくて、つまらないって。サッカーのほうが一億倍面白いだろ」

なに言ってるんだ、と泰司は口をA。サッカーは確かに面白い。でも、サッカーは、いつでも、どこでも、誰とでもできる。雪合戦は、冬が寒い町で、雪の積もった日に、その町の友だちとしかできない。これからもずっと南のほうの暖かい町にばかり引越していくのなら、雪合戦は、もう一生できないかもしれないのだ。

「積もったら、『かまくら』つくろう」

せいっぱい気を取り直して言った。「オレ、つくり方知らないから、教えてよ」と笑った。

でも、三上くんはそっけなく「オレだって知らないし、そんなのつくれないよ、どうせ」と言った。『かまくら』ができるほど積もるわけないだろ」

「だって、去年、毎年つくってるって……」

「そんなこと言ったっけ？」

頬がカッと熱くなった。

「……嘘だったの？」

「嘘っていうか、冗談っていうか、よく覚えてないけど」

三上くんは、ハハッと軽く笑った。

その笑い声が、耳の奥——いや、^③胸の奥のいちばん敏感な場所に針を刺した。

「それに、タイ、今日は絶対に積もらないって。おまえ、去年引越してきたからわかんないと思うけど、オレ、知ってるも。初雪って、毎年ばらっと降るだけなんだから」

三上くんはそう言って、まわりの友だちにも「なあ、そうだよな？」と一人ずつ訊いていった。まっちゃん、すぎちゃん、タンカくん、いっちゃん……全員、三上くんの言葉にうなずいた。

三上くんは「そうだろ、そうだろ、そうだよなあ」と満足そうにうなずいて、泰司を振り向いた。

「な？ わかっただろ？ タイも来年から覚えとかなないと」

^④胸の奥の針が——深々と沈んだ。

泰司は「ふざけるな！」と怒鳴って、三上くんにつかみかかった。

放課後になっても、雪は降らなかった。空の様子はいつ降りだしても不思議ではないのに、風が強くなっただけで、雪は、だめだ。

泰司はうつむいて帰りたくをして、友だちの誰とも話をせず教室を出て行った。

ケンカは引き分けに終わった。二人一緒に先生に叱られた。先生に「なんでケンカになったの？」と訊かれても、泰司はなにも答えなかった。先生は「どっちが先に手を出したの？」とも訊いてきたが、三上くんも口をとがらせて黙っていた。

仲直りはしなかった。だって悪いのはあいつなんだから——三上くんも同じように思っているはずだから、よけい自分から謝るのは嫌だった。

ランドセルがやけに重い。半ズボンからのぞく太股や膝小僧が寒い。ジャンパーの袖に手を隠して、とぼとぼと校門を出たとき、後ろから呼び止められた。

「なにやってんだよ、待ってって言ってるだろ」

三上くんはランドセルを叩かれた。

「……そんなのオレの勝手だろ」

うつむいたまま低い声で答えると、三上くんはへへッと笑って、「さつき、っていうか……去年、ごめんな」と言った。

なんだこいつ、あっさり謝っちゃって、^⑤ばーか。

泰司は足を速めた。三上くんもついてきた。泰司は逃げる。三上くんは追いかける。逃げる。追いかける。逃げる。追いかける。逃げる。追いかける。逃げる……。

頬に冷たいものが触れた。

あっ、と泰司は声にならない声をあげて立ち止まった。雪だ。

風に乗って、白いものが舞い落ちていた。積もるような降り方ではない。ほんの少し雲が晴ればすぐにやんでしまいそうな、頼りなげな初雪だった。

それでも——雪だ。

三上くんも立ち止まって、空を見上げた。

「雪だなあ……」

なに言ってるんだ、そんなの見ればわかるだろ、と泰司はにらむように空を見上げる。

「これだと、意外と奇跡で積もるんじゃないか？」

調子のいいことばかり言ってる。

^⑥ばーか、とつぶやくと、自然と B がゆるんで、まっすぐに雪が降り落ちた。

三上くんは泰司が笑ったので安心したように、その場でぴよんぴよん跳びはねた。口も ウ 開けている。

「なにしてんの？」

「雪、食ってるの。これだったら、積もらなくても遊べるだろ」

ぱくつ、ぱくつ、と降ってくる雪を食べる。ほんとうに口の中に雪が入っているかどうかはわからなかったが、三上くんは、とてもおいしそうな顔をしていた。

ばーか、ばーか、雪合戦より一兆倍ガキっぽいだろ、こんなの。

心の中でつぶやきながら、泰司もやってみた。意外と難しい。だから、たまに口の中に冷たいものが入ってジュツと溶けると、やった、と声をあげたくなるほどうれしかった。

ばーか、ばーか、ばーか……。

心の中のつぶやきは、最後に、変わった。

「オレ……三月で転校するんだ」

三上くんは、ふうん、とうなずいただけで雪を食べつづけた。

それだけ？

泰司はちよつと拍子抜けして、でも、 C したのを悟られたくなくて、黙って口をばくばくと動かした。

ずっと上を向いていたので首筋が痛くなってきた頃、三上くんの声が、やっと聞こえた。

「なんで？」

思わず振り向くと、三上くんは空を見上げたまま、「なんで転校しちゃうの？」と重ねて訊いてきた。

「なんで、って……お父さんが転勤するから」

「それで一緒に行くの？」

「うん……」

ふうん、と三上くんはまたうなずいて、「いそろうは？」と

訊いた。「ドラえもんとか、オバケのQ太郎みたいなの」

あまりにも唐突な一言にどう応えていいのかわからず、泰司はちよつと困った顔で笑うだけだった。

でも、三上くんは「オレ、二段ベッドでもいいけど」と怒った声でつぶけた。「二段ベッドの下のほうでも、いいけど」

一瞬きよとんとした泰司だったが、あ、そうか、と気づくと、困惑した笑顔が微妙にゆがんだ。

三上くんも自分の言葉に急に照れてしまったみたいなのに、いきなり駆けだした。空を見上げたまま。口を開けたまま。飛行機みたいに両手を広げて。

しばらく走ったところで立ち止まり、振り向いた。

三上くんの顔もゆがんでいた。なにか言いたげに口が動きかけた。でも、それを振り払うように、「走ってたほうが、雪、たくさん食べる」と笑う。「ほんとほんと、今度はほんと」と念を押して、また空を見上げ、口を開けて、走りだす。

泰司も追いかけた。

さっきの三上くんを真似して両手を翼のように広げ、口を大きく開けた。

雪が降る。雪が口に入る回数は止まっているときとたいして違わないような気がしたが、不思議なほど目のまわりによく当たる。まぶたに。まつげに。目尻に。目頭に。ひやっとした雪が降り落ちて、溶けて、また当たって、また溶けて。だから、目がひくひくしてしかたない。

雪が降る。頬で溶けて口に入った雪は、ほのかにしょっぱかった。

時化した海の波しぶきを風が運んで、雪と混じり合ったせいだ。たぶん。

（『季節風 冬』文春文庫 重松清 2010 より抜粋）

問一 [ア] [ウ] にあてはまる言葉としてふさわしいものを次の1～6からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 ちかちか
- 2 ころころ
- 3 ガタガタ
- 4 ぱくぱく
- 5 ガクガク
- 6 よろよろ

問二 [A] [C] にあてはまる言葉としてふさわしいものを次の1～5の中からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 きった
- 2 すっぱくした
- 3 わった
- 4 にごした
- 5 とがらせた

- 1 肌
- 2 頬
- 3 頭
- 4 手
- 5 目

- 1 きつちり
- 2 きつぱり
- 3 がっかり
- 4 さつぱり
- 5 につこり

問三 — 線①「転校のことは、まだクラスの誰にも打ち明けていない」とありますが、次の文はその理由を説明したものです。 [] に入ることばを三十五字以内で考えて書きなさい。

親友の三上くんには転校することを一番に伝えなくてはならないと思っているが、別れがたらくて言いだせずにいるのに、 [] から。

問四 — 線②「ひととき強い北風が、電線をびゅうつと口笛のように鳴らして吹きわたる」とありますが、この文に用いられていない表現技巧を含むものを、次の1～4の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 彼の言葉が刃のように突き刺さった。
- 2 カップがきゅうきゅうと泣き出した。
- 3 今日、僕の靴は優しく笑っている。
- 4 彼女の微笑みは太陽だ。

問五 — 線③「胸の奥のいちばん敏感な場所に針を刺した」とありますが、針を刺したのはどんなことですか。適切なものを次の1～4の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「ちょっと降って、それでもう終わりだよ」という三上くんが、すぐに話題を変えてサッカーのほうが面白いと

言ってしまったこと。

2 「降っても、積もらないよ」と言われ、泰司もわかっているのに雪が降らないことを強調して、せっかく期待していたことを台無しにされたこと。

3 泰司は『かまくら』を作って、そこで三上くんを転校することを告げたかったのに、毎年かまくらを作っているという言葉が嘘だったこと。

4 泰司はこれからずっと南のほうの暖かい町にばかり引越していくから、雪合戦は、今日できなければもう一生できないかもしれないこと。

問六 — 線④「胸の奥の針が——深々と沈んだ」とありますが、

このときの泰司の気持ちとして適切なものを次の1～6の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 雪合戦ができない
- 2 サッカーができない
- 3 かまくらが作れない
- 4 周囲の友達にも裏切られた
- 5 三上くんが泰司を必要としていない
- 6 泰司が三上くんを切り出せない

問七 — 線⑤「ばーか」——線⑥「ばーか」とありますが、

それぞれ内容が違います。どう違いますか。説明として適切なものを次の1～4の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 — 線⑤「ばーか」は、思うようにいかない天候に対してのいらだちと三上くんに対するいらだち。——線⑥「ばーか」は、三上くんが本当は積もりそうな降り方ではない雪を見て、雪が積もらないという予測が外れてしまったことに対する勝利の気持ち。

2 — 線⑤「ばーか」は、泰司がしたいことを理解してくれない三上くんに対するいらだち。——線⑥「ばーか」は、三上くんが本当は積もりそうにない雪を見て、最近不機嫌な泰司を気づかかって「積もるんじゃないか?」と言ってくれたことが嬉しい。

3 — 線⑤「ばーか」は、いつも一緒にいる三上くんが泰司を理解してくれないことに対する悲しみ。——線⑥「ばーか」は、三上くんも立ち止まって、空を見上げてその場でぴょんぴょん跳びはねてくれたことに対する楽しさ。

4 — 線⑤「ばーか」は、泰司の意見を完全否定したり見当違いをする三上くんに対する情けなさ。——線⑥「ばーか」は、三上くんが、頼りなげな初雪を見て、雪が降ったことを一緒に喜んでくれていることに対して、やっぱり一緒にいる意見なのだという安心。

問八 — 線⑦「あ、そうか」とありますが、泰司が気付いた内容として適切なものを、1〜6の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 今回もまた上をゆずってくれたということ
- 2 怒っているのにしかたなくあやまつていること
- 3 いそろうさせてでも一緒にいたいということ
- 4 転校する泰司にいらいらしていること
- 5 同じ学校に二人で通いたいということ
- 6 あやまつても一緒にいたいということ

問九 — 線⑧「困惑した笑顔が微妙にゆがんだ」とありますが、困惑の内容と、笑顔がゆがんだ理由を次の1〜4の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 困惑は三上くんが「なんで転校しちゃうの？」と訊いてきたことにどう答えるべきか迷ったことで、笑顔がゆがんだのは三上くと別れることになるのが悲しいから。
- 2 困惑はふうん、という三上くんの答え方があっさりしすぎていることで、笑顔がゆがんだのは三上くんが急に駆けだしてしまったから。
- 3 困惑は三上くんが何を言っているかわからなかったことで、笑顔がゆがんだのは二段ベッドの理由がわかって嬉しなのに、その三上くと離れることが悲しくて泣きそうになったから。

問十 — 線⑨「なにか言いたげに口が動きかけた。でも、それを振り払うように、『走ってたほうが、雪、たくさん食べる』と笑う」とありますが、この時の三上くんの状況の説明として適切なものを次の1〜4の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 三上くんは自分の父母に泰司をいそろうさせる言い訳を考えてみたが、なんていえばいいのかわからず、雪の話題に変えて悲しみを打ち消そうとしている。
- 2 三上くんは泰司と一緒に雪が降るのを見るのがはじめてで、泰司が待ちわびていた雪をせめて一緒に楽しもうとしている。
- 3 三上くんは離れたくない思いを持っているが言えずにいて、それよりも一緒にいる今を楽しもうと思っている。
- 4 三上くんは別れたくない思いを持ちながらもどう表現してよいかわからず、雪の話題に変えて悲しみを打ち消そうとしている。

三

次の各文の——に注意して、□にあてはまる字数の言葉をひらがなで書きなさい。

- ① けつしてうそをつく□□と思った。
- ② いったい、そんなことが許されよう□。
- ③ さぞお困り□□□と、周囲に同情される。
- ④ まったく彼の考えが理解でき□。
- ⑤ たとえ夢であつ□□、すばらしいことだ。

四

次の①～⑤の故事成語・慣用句・四字熟語の□にあてはまる最も適当な文字を、後の1～0の中からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 漁 □ の利
- ② 当 □ 即妙そくみょう
- ③ 二階から □ 薬
- ④ 一 □ 帯水
- ⑤ 人 □ を尽くして天命を待つ

- 1 衣
- 2 服
- 3 意
- 4 座
- 5 目
- 6 命
- 7 事
- 8 夫
- 9 妻
- 0 良

五

次の——線をつけたカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 詩をロウドクする。
- ② 大臣たちがカクギで話し合う。
- ③ 仕事のノウリツを上げる。
- ④ 容器をミツペイする。
- ⑤ 虫をカンサツする。
- ⑥ クラスのケツソクが固い。
- ⑦ 青春ゲンゾウを描く。
- ⑧ セキムを果たす。
- ⑨ アマダれ石を穿つ。うが
- ⑩ ソンダイに構える。

